

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研究生または卒業生

<p>学会名</p>	<p>日本植物学会第82回大会（広島国際会議場，2018年9月14-16日）</p>
<p>演題名</p>	<p>「われても末に？ 切断組織の修復と再生」</p>
<p>発表者</p>	<p>○朝比奈雅志^{1,2}、<u>松岡啓太</u>¹、佐藤忍³ ¹；帝京大・理工・バイオ、²；帝京大・先端機器分析センター、³；筑波大・生命環境（○；発表者、アンダーライン；本学教職員、研究員） 【植物生理学研究室】</p>
<p>内容</p>	<p>日本植物学会シンポジウム「植物細胞のリプログラミング制御 ～その鍵は動的恒常性の維持と打破にあり～」にて、植物特有の転写因子による切断組織の再生と癒合に関する分子メカニズムと植物ホルモンの関与について招待講演を行った。</p> <p>植物が高い分化可塑性を発揮して細胞状態を大きく変える際には、既存の分子システムがダイナミックに変容しつつもその恒常性が維持される必要があると考えられる。本シンポジウムでは、分化可塑性が顕在化するストレス応答時や組織培養系において、ホルモン、転写因子、エピゲノム、RNA代謝等のキーワードを切り口に細胞リプログラミングのメカニズムを探求する研究者が集い、最新の知見に基づいて植物の動的恒常性に関する最新の研究紹介と議論を行った。</p> <p>本研究は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」、科学研究費補助金「切断組織の再生を制御する植物ホルモンと遺伝子の時空間的制御」、私学事業団特別補助「大学間連携による共同研究」による支援を受けて行ったものであり、筑波大学との共同研究として遂行している。</p>
<p>関連画像</p>	